貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位:千円)

資 産 の	部	負債の	(単位:十円) 部
動資産	5, 564, 506	流動負債	2, 779, 775
現金及び預金	1, 019, 579	買掛金	1, 908, 539
売掛金	1, 382, 053	未払金	493, 993
商品	40, 599	未払費用	64, 774
製品	385, 317	未払法人税等	24, 617
原 材 料	1, 625, 373	前 受 金	109, 077
仕 掛 品	86, 748	賞 与 引 当 金	48, 841
貯 蔵 品	8, 077	製品保証引当金	61, 065
前 渡 金	63, 422	商品保証引当金	1, 247
前 払 費 用	20, 633	返品調整引当金	22, 122
繰延税金資産	156, 995	その他	45, 497
立 替 金	703, 440	固定負債	19, 787
そ の 他	72, 380	長期繰延税金負債	19, 787
貸 倒 引 当 金	△ 115		
固定資産	279, 715	負 債 合 計	2, 799, 562
有形固定資産	239, 306		
建物	125, 844		
構築物	166	純 資 産 (の 部
車両運搬具	113	株主資本	3, 044, 660
工具器具部品土地	19, 181 94, 000	資 本 金	100, 000
無形固定資産	2, 636	資本剰余金	2, 593, 712
商標権	24	資 本 準 備 金	2, 283, 712
その他	2, 611	その他資本剰余金	310,000
投資その他の資産	37, 773	利益 剰余金	350, 948
敷 金 保 証 金	29, 452	土地圧縮積立金	27, 213
長期繰延税金資産	6, 182	繰越利益剰余金	323, 735
そ の 他	2, 138	純 資 産 合 計	3, 044, 660
資 産 合 計	5, 844, 222	負債純資産合計	5, 844, 222

⁽注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 子会社及び関連会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。

② デリバティブ 時価法を採用しております。

③ たな卸資産の評価基準及び評価方法

・商品、原材料 移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿

価切下げの方法により算定)を採用しております。

・製品、仕掛品 個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切

下げの方により算定)を採用しております。

・貯 蔵 品 最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づ

く簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 定率法 (ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物 (附属設備を除く)

については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 $15 \sim 23$ 年 建物附属設備 $8 \sim 20$ 年 構築物 $4 \sim 4$ 年 車両運搬具 $3 \sim 4$ 年 工具器具備品 $2 \sim 12$ 年

② 無形固定資産 定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5

年) に基づいております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸 倒 引 当 金 売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計

上しております。貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘

案し、回収不能見込額を計上することとしております。

② 賞 与 引 当 金 従業員に支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担

額を計上しております。

③ 製品保証引当金 製品販売後の無償補修費用の支出に備えるため、販売台数を基準として過去の

経験率に基づき無償補修費用見込額を計上しております。

④ 商品保証引当金 商品販売後の無償補修費用の支出に備えるため、販売台数を基準として過去の

経験率に基づき無償補修費用見込額を計上しております。

⑤ 返品調整引当金 商品の返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案し将来の返品に伴

う損失予想額を計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・外貨建金銭債権債務

③ ヘッジ方針 外国為替変動リスクをヘッジする目的で実需の範囲内で実施しております。

④ ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及 びその後も継続して変動相場またはキャッシュ・フロー変動を完全に相殺する ものと想定することができるため、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であること確認することにより有効性の判断に代えております。

(5) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理税抜方式を採用しております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額

125,221 千円

(2) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

① 短期金銭債権 785,005千円

② 短期金銭債務 410,883千円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	前事業年度末の	当事業年度	当事業年度	当事業年度末の	
	株式数	増加株式数	減少株式数	株式数	
普通株式	2,000 株	_	_	2,000 株	

(2) 剰余金の配当に関する事項

配当金支払額等

平成23年6月24日開催の第5回定時株主総会決議による配当に関する事項

・配当金の総額 250,000 千円 ・1株当たり配当額 125,000 円

· 基準日 平成 23 年 3 月 31 日

・効力発生日 平成 23 年 6 月 27 日

4. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因の内訳 繰延税金資産

棚卸資産評価損82,791 千円製品保証引当金15,779 千円賞与引当金20,562 千円その他44,044 千円繰延税金資産合計163,177 千円

繰延税金負債

 土地圧縮積立金
 19,787 千円

 繰延税金負債合計
 19,787 千円

繰延税金資産の純額 143,390千円

5. 関連当事者との取引に関する注記

同一の親会社を持つ会社等及びその他の関係会社の子会社等

	議決権等	関係内容				期末残高		
属	性	性 会社等の名称 の 所 有 (被所有) 割合(%)	役員の兼任等	事業上の関係	科	目	期末残高(千円)	
	親会社の 子会社	(株) シ ネ ッ ク ス	1	兼任 1名	л ° - ッ 仕 入 先	買	掛 金	303, 052

6. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額

1,522,330円18銭

(2) 1株当たり当期純利益

143,873 円 67 銭

7. 当期純利益金額

当期純利益は 287,747 千円であります。

以上